

中国信息 (WTO/FTA・貿易・安全・その他)

2007年5月8日号

目次

◎ 2007年3月小麦市場観測情報

【中国農業部】

◎ 中国2007年第1四半期農産物輸出の動向

【中国商務部】

◎ 2007年3月小麦市場観測情報

【中国農業部】

中国農業部は先ごろ、2007年3月における小麦市場の観測情報について発表した。その概要は以下のとおりである。

1 気象条件は全体に良好、病虫害の発生を重視

3月末は、北方の大部分の地区において冬小麦が青い芽を出す時期であり、黄河・淮河の西部や陝西省南部、長江（揚子江）の中・下流域の地区では茎が伸びる時期である。また、西南地区の大部分では穂の出る時期であり、雲南省の大部分の地区では灌漿乳熟期（灌漿乳熟＝結実期に植物の脈管を通して澱粉が送られ、ミルク状の結球になることで、これが後に実となる）に、西北地区では春小麦の播種時期を迎える。3月には、北方の大部分の地区において気温が高く降水量も多く、光線や水の条件が比較的良好で、冬小麦が越冬後に青芽を出すには十分有利な環境であり、一部の地域では冬小麦が過生長する現象も見られた。3月上・中旬には、二度に亘って広範な寒気に覆われ、長江中・下流域地区の冬小麦に若干の冷害が見られた。川渝（四川省及び重慶市）、雲南省などではダムの貯水量が以前から不足気味であったことに加え、3月は降水量も少なかったことから、夏糧（夏季に収穫される食糧。大部分は冬小麦で、ほかに大豆、燕麦、ソラ豆、エンドウなども含まれる）の生産量に影響を与えるものとみられている。

冷害や早魃、過生長に加え、暖冬による害虫の越冬数が多いことなどから、今年は小麦の病虫害の多発が懸念される状況となっている。3月末までの全国の小麦の病虫害の発生面積は3億ムー（約2千万ヘクタール：1ムー＝15分の1ヘクタール）を超え、前年同期に比べ10%以上の増加となった。そのうち小麦の黄サビ病の発生面積は、前年同期比400万ムー（約27万ヘクタール）増、紋枯病の発生面積は同2,000万ムー（約133万ヘクタール）増となった。小麦の病虫害の予防・治療のため、農業部は4月上旬には応急的な防御行動をとっており、小麦の主産地では、農業部局の統一的な行動に基づく正確な情報と科学的な防御に基づき、病虫害が小麦生産に及ぼす損失を軽減させるべく精一杯の努力をしている。

2 1～2月の小麦輸出量は、これまでの輸出構造を保ちつつ引き続き大幅増

中国の小麦は3年連続の豊作で、国内供給には十分な余裕がある一方、国際的な小麦の減産傾向から価格が高水準で推移しているという背景から、2006年下半年以降、中国の小麦輸出は急速に増加している。海関統計によると、1～2月における中国の小麦輸出量は前年同期に比べて大幅な増加を続けており、かつ前年同期が純輸入国であったのに対し、今期は純輸出国へと転じている。1～2月の小麦の累計輸入量は、前年同期比32.3%増の6.25万トン、累計輸出量は同3.65倍の20.06万トンとなった。前年同期は4,151トンの輸入超であったが、今期は13.81万トンの輸出超であった。中国の小麦の主要輸入相手国はカナダ、豪州であり、主要輸出相手国は韓国、フィリピン、ベトナムなどであった。

3 国内の小麦供給には十分な余裕、国際的な小麦生産は減少

【国内市場】2006/07年度（2006年6月～2007年5月）における中国の小麦生産量は、前年に比べ大幅に増加すると予測されている。食用消費はやや減少するものの、国内畜産業の着実な発展が小麦やトウモロコシ価格に及ぼす影響や飼料消費・工業消費が急増している影響などにより、国内の小麦消費総量は前年に比べ小幅な増加と見込まれている。当年度における小麦の供給量が増加することは明らかで、当年度の消費を満足するだけでなく、結果的に余剰が発生することから、全国ベースで見た場合、小麦の期末在庫量は前年に比べ増加するものと予測されている。

【国際市場】米国農務省（USDA）の今年3月の発表によると、2006/07年度における世界の小麦生産量、消費量は先月よりも上方修正されたものの、そのレベルは前年度に比べ低い水準にある。当年度の世界の小麦生産量は、前年比2,750万トン（4.43%）減の5億9,311万トンと予測されている。また、当年度の期首在庫は1億4,746万トン、総供給量は同4.05%減の7億4,057万トン、消費量は同503万トン（0.81%）減の6億1,934万トン、うち飼料消費は同2.89%減の1億803万トンとされている。当年度の小麦生産は需要に比べ不足するため、期末在庫は引き続き減少し、前年比17.79%減の1億2,123万トンと

予測され、1981年以来最低の水準と見込まれている。世界の小麦の在庫／消費比は、前年比4.05ポイント減の19.57%となり、1960年以来の最低を記録した。世界の小麦貿易量は米国、豪州など主要輸出国における生産量の減少に伴い、明らかに減少する。2006/07年度における世界の小麦輸入量は、前年比1.06%減の1億912万トン、輸出量は同7.49%減の1億802万トンと予測され、うち米国の輸出量は10.66%減、豪州は21.12%減と見込まれている。

4 国内の小麦買上価格は高水準で小幅な変動、卸売価格は基本的に安定

2006年10月に国内の小麦価格が上昇して以来、主産地における小麦の買上価格は4か月連続して小幅な上昇を維持した。国家の食糧最低買上価格制度（食糧保護価格制度：食糧の市場価格が著しく低下した場合、一部の食糧品目について、国务院の決定に基づき、政府の委託を受けた国有食糧企業などの買上機関が、最低買上価格＝保護価格により農民から食糧を買い上げる制度）に基づく定期的な小麦の秩序ある売渡入札により、企業の需要は基本的に満足され、市場は安定し、春節（旧正月）前の需要最盛期においても、価格は安定的に推移した。2006年11月3日に1回目の売渡入札が開始されてから2007年3月29日までに、国は18回にわたり計画量1,736万トンの最低買上価格小麦の売渡入札を行い、実量1,134.5万トンの契約を交わした。実成約量（1,134.5万トン）は、最低買上価格制度による2006年の小麦の買上総量の27.84%に相当する。

主産地における買上価格は、高水準で小幅な変動を示した。1月の冀魯豫（河北省・山東省・河南省）の三大生産省における小麦の買上価格は50kg当たり75.57元に達し、2002年以来、月平均価格としては最高を記録した。2月、3月はやや下落し、それぞれ75.3元、75.38元となった。第1四半期の平均価格は、前年同期比11.06%高の75.42元となり、うち河北省では同6.94%高の77.63元、山東省では同10.73%高の77.54元、河南省では同13.7%高の72.24元となった。

小麦の卸売価格は、安定的な中にも動きが見られた。第1四半期の国内の普通小麦（一般品質の小麦）の卸売価格は緩やかに上昇したが、優良小麦は緩やかに下落した。ただし、変動の幅はいずれもごく小さいものであった。3月の普通小麦卸売価格は前月比0.25%高、前年比1.53%高の1トン当たり1,497.5元、優良小麦卸売価格は前月比0.60%安、前年比0.92%高の同1,650元となった。第1四半期の平均価格は、前年同期に比べやや上昇し、普通小麦が前年同期比10.25元（0.69%）高の1トン当たり1,494.58元、優良小麦は同28.33元（1.74%）高の1,660元となった。

5 国際小麦価格は高水準で小幅変動、国内の小麦価格よりも高値で推移

2006年は国際的に小麦の生産量が減少して需給が逼迫し、価格は全体に高水準で小幅に変動し、かつ前年よりも高値で推移した。2007年の世界の小麦生産量はある程度回復し、価格の上昇傾向は明らかに緩和するものとみられている。関係資料によると、冬季に入っ

てから米国の平原地域は天気が良好で、冬小麦の品質向上に有利に働いた。U S D A の 3 月の発表によると、冬小麦の生産地域における優良評価率は57%で、長期的な平均値は44%、前年は24%、前々年は68%であった。うちカンザス州の今年の冬小麦の優良評価率は72%で、前年同期の23%と比べはるかに高水準となった。冬小麦の優良評価率と最終的な単収規模の間には大きな関係があり、今年の冬小麦の単収は、平均レベルを超えるものと期待されている。生産量の好転は、急騰する小麦価格をある程度抑制する役を果たしている。

第 1 四半期の国際市場における小麦の現物価格は、初めに上昇の後、安定的に推移し、1 月は前年末の高水準から小幅に下落し、2 月には再び上昇、3 月は基本的に安定的に推移しつつも次第に弱含みとなった一方、先物価格は微弱ながらも上昇傾向を維持した。

【現物取引】3月の米国メキシコ湾における硬紅冬小麦（蛋白質含有量12%）の平均港湾価格（本船渡し価格＝F O B 価格）は、前月比0.24%安、前年同月比12.38%高の1トン当たり211ドル、同じく第1四半期は前年同期比25.67ドル（13.92%）安の210ドルとなった。3月の西北太平洋における硬紅春小麦（蛋白質含有量14%）の平均F O B 価格は、前月比0.11%安、前年同月比13.44%高の1トン当たり221.5ドル、同じく第1四半期は前年同期比24.17ドル（12.43%）高の218.67ドルとなった。

【先物取引】3月のカンザス先物取引所における硬紅冬小麦の平均先物価格は、前月比0.44%高、前年同月比15.75%高の1トン当たり182.13ドルとなった。同じく第1四半期は、前年同期比29.31ドル（19.28%）高の181.28ドルとなった。3月のミネアポリス先物取引所における硬紅春小麦の平均先物価格は、前月比0.15%高、前年同月比21.60%高の1トン当たり185.19ドル、同じく第1四半期は、前年同期比35ドル（23.46%）高の184.16ドルとなった。

3 月は国際海上輸送費が大幅に上昇したため、輸入小麦の運賃保険料込み価格（C I F 価格）も上昇し、国内小麦との価格差は、前月に比べやや拡大した。

◎ 中国2007年第1四半期農産物輸出の動向

【中国商務部】

中国農業部は先ごろ、中国2007年第1四半期農産物輸出の動向について発表した。その概要は以下のとおりである。

中国商務部が発表した「中国農産物輸出分析報告—07年第1四半期」によれば、2007年第1四半期農産物輸出額は84.5億ドル、前年比24.8%の増加、輸入額は80.6億ドル、前年比10.

1%の増加で、貿易黒字額は3.9億ドルとなった。

また、3月単月での輸出額は26.4億ドル、前年比1.1%の増加と2月の増加率と比べて大幅に増加率が減少した。商務部農産物貿易専門家によれば、この減少の主な要因は、2007年の春節が遅かったことなどによる。

以下は、中国商務部による2007年第1四半期の農産物輸出分析である。

2007年第1四半期の農産物輸出の主な特徴は以下のとおりである。

① 園芸、水産部門が輸出増加の牽引部門、穀物輸出も大幅に増加

園芸部門の輸出は26.7億ドル、前年比31.5%増となり、そのうち、野菜、果実及び堅果などの輸出が12.8億ドル、前年比48.7%増となった。

水産部門輸出では20.7億ドル、前年比18.3%増となり、そのうち、淡水産物輸出は10.1億ドル、前年比36.9%増となった。

園芸、水産部門の2部門の輸出額は、農産物輸出額全体の56.1%を占め、輸出増加額に対する寄与率は14%であった。

また、穀物の輸出も大幅に増加し、第1四半期累計輸出額は7.2億ドル、前年比80.1%増であった。

一方、畜産物の輸出額の増加率は緩慢で、第1四半期累計輸出額は7.7億ドル、前年比2.7%増であった

② 対EU・韓国・米国・アセアン輸出増、対日本・香港は緩やかな増

対EU（27カ国）輸出額は、12.3億ドル、前年比34.8%増となった。

対韓国輸出額は、トウモロコシ輸出の大幅な増加により10.5億ドル、前年比41.4%増となった。

対米国輸出額は10.3億ドル、前年比35.8%増、対アセアン輸出額は8.8億ドル、前年比31.1%増となった。

対日輸出額は、19.3億ドル、前年比3.8%増、対韓国輸出額は、6.5億ドル、前年比9.6%増であった。

新興市場では、対中東諸国輸出額は3.2億ドル、前年比31.1%増と7番目の輸出市場となり、対ロシア輸出額は2.8億ドル、前年比37.6%増となった。

③ 主要輸出省・市の輸出は良好、中西部地域の増加が継続

7大輸出省・市のうち、遼寧（7.4億ドル、前年比44.8%増）、福建（7.3億ドル、同32.6%増）、北京（5.4億ドル、同80.5%増）、江蘇（3.6億ドル、同43.2%増）は大幅な増加、山東（20.1億ドル、同19.5%）、広東（9.2億ドル、同12.9%）、浙江（6.8億ドル、同11.0%増）は緩やかな増加となった。

また、中西部地区のうち、陝西、湖北、海南、重慶、チベット、寧夏、新疆などの

輸出増加率は皆20%を上回った。

④ 民間企業輸出増加率は高く、国有企業は低い

民間企業の輸出額は29.9億ドル、前年比42.4%増、外資系企業の輸出額は34.1億ドル、前年比20.3%増、国有企業の輸出額は20.1億ドル、前年比15.8%増であった。